

アフガニスタン山の学校だより

ばあー 2018年号

通算34号

# 映画制作スタート!

## 2018年 アフガニスタン訪問報告



▲学校が終わってから、山からもどった羊の世話をする。

### 幸せとはなんだろう?

9月9日、第2期2度目の総会&報告会が開催されました。その日は奇しくもマスードの命日。100名を超える方々が集まってくださり、盛況のうちに終えることができました。

それに先立って5月7日から実施した現地訪問で最も印象的だったのは、インド留学中のモハマド・アミンと高校教員を務めながら州議会議員を目指す兄のファヒーム、この2人の卒業生との再会でした。彼ら卒業生が故郷の村を思い、村のために役立ちたいと願う姿にふれ、胸が熱くなりました。そんな彼らが必ず口にするのは、支援への感謝の言葉です。私たちの支援が彼らの心に刻まれていることを知り、うれしく思っばかりです。

いまだ困難の中にあるアフガニスタンですが、山の学校の子どもたちやその家族を見ると、「人の幸せとは何だろう」と考えます。どの人も生きている限り、悲しいこともうれしいこともあるはずで、そのどちらに目を向け、生きていくのか。それが問われているのだと思うのです。人それぞれに不幸の量が違うのではなく、「人の幸せの総量」はそんなに変わらないのではないのか。少なくとも、幸せを求める気持ち、幸せを感じる力は誰もが平等に与えられていると思います。それこそが、マスードが生前、話していた「魂の平等」だったのではないだろうか、今になって思い至ります。

これからもこれまでの縁を大切にしながら、みなさまとともに山の子どもたちを見守っていききたいと思います。

山の学校支援の会

代表



長谷川洋海

好きな人がいたからなのだろうか…。

# アフガニスタンに「光」を見た

2018年5月7日～17日  
アフガニスタン訪問報告

長倉洋海

5月7日(月)

深夜、アフガニスタンに向け羽田空港を出発。同行者は森、高橋、そして映画監督の河邑さんの3名。経由地のドバイを経て、9日にはカブール行きのエミレーツ機に乗り込んだものの、2時間たっても離陸しない。機内がざわめき始め、電話でカブールと連絡を取り出す人が出る。その話から「カブールで自爆テロがあり、戦闘がまだ続いている」と知った。結局、翌朝の便で飛び立つことができたが、なかなか安定しない政治状況に気持ちが悪くなる。前日にお会いした駐UAE（アラブ首長国連邦）大使を務めるフアリド氏の「長い歴史の中で、この間は一瞬。また晴れる日も平和の日もやってくるにちがいない」という言葉を再度、かみしめる。

5月10日(木)

戦闘が収まったカブールに1日遅れで到着。安井さんの家で会った山の学校のヤシン校長から、「生徒が1人死んだ」と聞いた。そして、それがムシゴンで、自殺だと聞いて、言葉を失う。イマーム・アリの娘で、カティープの妹だ。「自分の足で銃の引き金を引いて自らの命を絶った」と知り、ムシゴンの気持ち、そして残された家族のことを思うといたたまれなくなった。（写真1 昨年、ローヤの家のテラスで布団の綿入れをしていたムシゴン）

5月11日(金)

気を取り直しパンシル渓谷のポーランドへ向かう。途中、9



個の大きなスイカを買って、学校へ。金曜で休日なので、スイカを当直室に入れると、上流のガウウィン村へ。ナイマの家を訪ねると、彼女の妹のファイマとソーマばかりでなく、隣家のローヤ下の家からはシャエスタとルビナ姉妹が来てくれる。みんなムシゴンの死を悲しみ、理由はわからないと話す。

足の悪い母親を手伝うために中学2年生で学校を中退したナイマは、「ここでは掃除洗濯、家事をするだけで楽しいことがない。でも、マドラサに行ってイスラムを勉強したい。夏、講習を受け、とても興味を持つようになったから」と目を輝かせる。今も学ばうとする姿に心打たれた。（写真2 制作中の映画のナレーションをしてくれたナイマ）



イマーム・アリを訪れる。「ホタウン、バクシシ（お悔やみ申し上げます）」と言葉をかける。2人とも涙があふれ、言葉にならず、ただ抱き合っしかなかった。憔悴し切った母親は「娘の写真がもつとほしい」と頼んできた。

それにしても、どうして自殺したのか。「親に勧められた結婚が嫌だったのではないか」と言う人がいたが、それが本当なら親しい彼女は断れなかったのかもしれない。あるいは、ほかに

5月12日(土)

朝、子どもたちが、上流から下流から登校してくる。顔見知りの子に「朝ごはん、何食べた？ バターはあったか。肉はあったか」と聞いてみる。首を振りながら「でも、牛乳とパンがあったよ」と答えるのが可愛い。お兄ちゃんやお姉ちゃんに手をつないでもらって登校するのは1年生。リュックが歩いているような小さな子もいる。朝礼のあと、すぐに授業が始まったが、切りのいいところで、ノート、鉛筆、ペン、消しゴムを配り始める。1年生の教室では、リュックや筆入れを配る。そのあと、町で購入した菓子子を1人分ずつ袋に入れたプレゼントを渡すと、みんなの笑顔がはじけた。成績優秀者の表彰も行ったが、今年も女生徒が多い。ご褒美には、安井さんが用意してくれていた制服を渡す。（写真3 ノートを持った5年生）

その日、卒業生

モハマド・アミン（24）が学校にやってきた。インドに国費留学中で、電気工学を学んでいるという。「大学院に行きたい。村の水力発電を使いやすいスタンダードなものに変えたい」と話す。

5月13日(日)

きょうは、やされた若者が、私を訪ねて学校にやってきた。げんな表情を浮かべる私に、親しげに話しかけ



てくる。名前はファヒーム(27歳、彼も卒業生で、きのうのアミンの兄だった。下のバザラク高校で、物理と地理を教えているという。前に、私が「みんな登校して来るところ」を撮ったことがあり、その写真は今も大切に保管していると話す。彼は高校卒業後、大学に行きたくて、南部や北部の激戦地域で警察官をやってお金を貯め、ヘラート大学のジャーナリズム学科へ進み、現在県議会議員に立候補中で、村々の地域の家々を訪ねて選挙運動をしているという。「この国の状況をなんとか変えたい」と話してくれる。ファヒームは「会が地域や学校を支援してくれたことを心から感謝しています。日本のみなさんにその気持ちを伝えてください」と話す。



(写真4 昔もらった写真を掲げるファヒーム)

河邑監督の発案で映画用のナレーションをナイマに頼むことに。小雨が降る寒い中で、ナイマがすばらしいナレーションをしてくれた。衣装もとてもすてきた。撮影は元イスラム戦士のユセフ。まわりの新緑が美しい。りんご、杏子、アーモンド。どの木も大きくなった。それらの木々に「もつと大きくなって、たくさんの実を付け、この村と人々を支えてくれ」と願った。

## 5月14日(月)

一足先に安井さんと撮影を終えた河邑監督がカプールにもどることに。森さん、高橋さんは生徒たちの顔写真を撮り、名前を記録。3人で図書館整理。ホラム先生の家で昼食をこちそうになる。そのあと、近所の大学生ワッハブを見かけ、家で勉強するようすや、小児性糖尿病治療中の妹のバシラを撮る。奥の部屋をのぞくと、1年生になったばかりの弟ホーロックが、教科書を開いたまま寝てしまっていた。(写真5 寝入るホーロック)



## 5月15日(火)



きょうが山での最終日。雨のため、屋外のスイカ割りはやめようと思ったが、みんなが「やりたい」と決行。雨にぬれながらもみんな本当にうれしそうだ。マスード廟への献花を済ませカプールに向かう。帰路の沿道では蜂蜜やザマロック(キノコ)を売る店、収穫したのトウモロコシ(桑の実)を売る屋台を目にする。シャモリー平原に入ると、道沿いに咲くたくさんのバラを目にして心洗われる。

カプール市内に入って異様な光景を目にした。巨大な墓地に太勢の人がたむろしている。ユセフによると、ヘロインの売人と中毒者だという。1パケットがわずか20〜50アフガニー(30〜80円)で、中毒患者には女性も多いと聞いた。精製に必要な化学物質はパキスタンから持ち込まれ、売上はタリバーンの資金源になっているようだ。

カプールにもどると、奨学金をもらって教師養成学校に通っていたが、「助産師の養成学校に替わりたい」と伝えてきたもうひとりのムシユゴンがやってきた。看護師のおばさんも一緒に、「村には病院もクリニックもなく、村人は注射を打ってもらうこともできない。おばさんの勧めもあって、私が少しでも村人の役に立てればと決意した」と話してくれる。

ポーランドで見た「光とカプールで見た「闇」。このどちらかが混在しているのが現代のアフガニスタンだ。それでも、私たちは「光」に目を向け、子どもたちと「希望」を育みたいと思いながら、17日、帰国の途に就いた。

## 「山の学校」が映画になります！

2017年のNHK ETV特集に続いて、「山の学校支援の会」の活動が映画化されます。映画は、子どもたちのようすや成長の記録、そして、彼らが暮らすポーランドが写されたドキュメンタリーです。編集費、ナレーション、映画音楽の作曲依頼と演奏、国際映画祭への出品料、広報、事務局運営などの費用をまかなうため、クラウドファンディングで支援を募ることを監督は考えています(時期等については改めてお知らせいたします)。

みなさまのご支援をよろしくお願いいたします。

長谷川洋海

世界の無関心の中で、紛争が続くアフガニスタン。映画は小さな学校に芽吹いている大きな希望を描き、未来へつなぐ感動の物語とします。

河邑厚德監督より





## ムルサルさんの カブール通信

安井浩美

＊アフガニスタンでは、10月20日に下院議員選挙が3年遅れで行われました。選挙の前々日、南部カンダハルの警察長官と軍司令官がタリバンによって暗殺されました。特にラザック警察長官は、アフガン平和をアフガン人の手で進めようとする第一人者で、愛国心が強く、私も直接会って話をすると、マスの国を思う心に重なる部分がありました。

今までに8回の自爆テロ攻撃にも倒れなかったラザック長官の暗殺は、アフガン国民に大きなショックを与えました。この事件の影響で、カンダハルでの投票は、1週間延期されました。「投票日には、あらゆる手段で選挙妨害する」とのタリバンからの脅迫があり、首都カブールでは、3件の自爆テロや爆発事件が起きました。が、それ以外大きな治安上の混乱はなく終了しました。

それよりも問題なのは、選挙管理委員会の職員による不正です。さらには、今回初めて採用された個人認証システムの動作がうまくいかず、時間切れで投票ができなかった有権者が出たために、1日延期して投票が行われました。

来年は、大統領選挙です。まだまだ混乱が続きますが、どうぞこれからアフガン情勢を注視してください。

アフガニスタン・カブール 安井浩美

## 事務局より

- ▶今年度は会員の方で協力により、東京のほか札幌と仙台で、現地報告会を開催しました。お住まいの地域で報告会やイベントの開催にご協力いただける方は、どうぞ事務局までメールでお知らせください。
- ▶2019年度の会費の振込用紙を同封いたしました。入会されたばかりの方もいらっしゃると思いますので、期日は設けませんが、納入をお願いいたします。なお、2018年度分未納の方には、2018年度分振込用紙も同封しました。
- ▶不要切手や書き損じはがきのご提供、ありがとうございました。今回の発送にも早速使わせていただきました。今後ともご協力をお願いいたします。
- ▶住所変更の場合は、お手数ですがメール、はがきなどで事務局までご一報ください。



アフガニスタン山の学校支援の会は、写真家・長倉洋海が取材活動を通して出会ったパンシル渓谷ポランデ村の子どものための教育支援を目的として設立された非営利の団体です。2004年4月に設立、以後2014年3月までの約10年間にわたって活動が続けられました。その後2017年3月まで活動を延長。4月より第2期支援活動をスタートしました。



▲A5サイズ  
内ポケット付き

表・裏に山の学校の子どもの写真、  
開くと両側にポケットが付いています。  
バッグの中でしわくちゃになりがちな紙類、  
A4判書類も2つ折りにすればジャストフィットです！

アフガニスタン山の学校の会  
クリアファイル販売中！



## イベントなどの報告 ダイアリー2018



### スケジュール 2019

2019年1月19日(土) 13:50～

福岡報告会 都久志会館にて

4月 アフガニスタン「食べて」「見て」もっと知ろう3

東京・東中野ろまろくににて

秋 総会・報告会 東京にて

★詳細が決まりしだい、当会ホームページで  
お知らせいたします。



＊9月9日、東京で、第2期2回目の総会と現地報告会が開かれました。  
昨年に引き続き、100名を超える方々にご参加いただき、スタッフ一同うれしい悲鳴でした。  
今回は、カブール在住の安井浩美さんとの中継

- ▶2月11日(日) アフガニスタン「食べて」「見て」もっと知ろう2 東中野ろまろくににて
- ▶3月17日(土) 和歌山青少年のための国際講座
- ▶3月18日(日) 京都報告会
- ▶11月25日(日) 北海道報告会
- ▶12月8日(土) 仙台報告会
- ◀10月 ミュンヘン国際児童図書館が世界中の児童書から選定する、国際推薦児童図書目録『ホワイト・レイブズ』2018年版に、長倉洋海写真集『世界は広く、美しい』が選ばれました！



▲アフガン民族衣装をまとう長倉代表と、  
在日アフガン人の江藤セデカさん、2月11日。

## 2018 総会のご報告

で、現在のアフガニスタン情勢も伝えられ、参加者は興味深く聴き入っていました。  
また、「山の学校」の映画化を進めている河邑厚徳監督も登壇し、撮影エピソードを語ってくださいました。

## アフガニスタン山の学校だより ばあー3 2018 年号/通算 34 号

発行日: 2018年12月16日 発行: アフガニスタン山の学校支援の会  
〒187-0032 東京都小平市小川町 1-1071-15 比留川 気付

[振込先] ゆうちょ銀行 振替口座

加入者名: アフガニスタン山の学校支援の会 口座番号: 00160-1-667404

電話: 070-3281-1180 E-mail ▶ info\_yamanogakko@yahoo.co.jp

http://www.h-nagakura.net/yamanogakko

編集・発行人: 長倉洋海/題字・イラスト: 近藤理恵/デザイン: 桂川潤

編集実務: 森 桂子・重野陽子・三輪はう子/印刷: 藤田印刷株式会社

